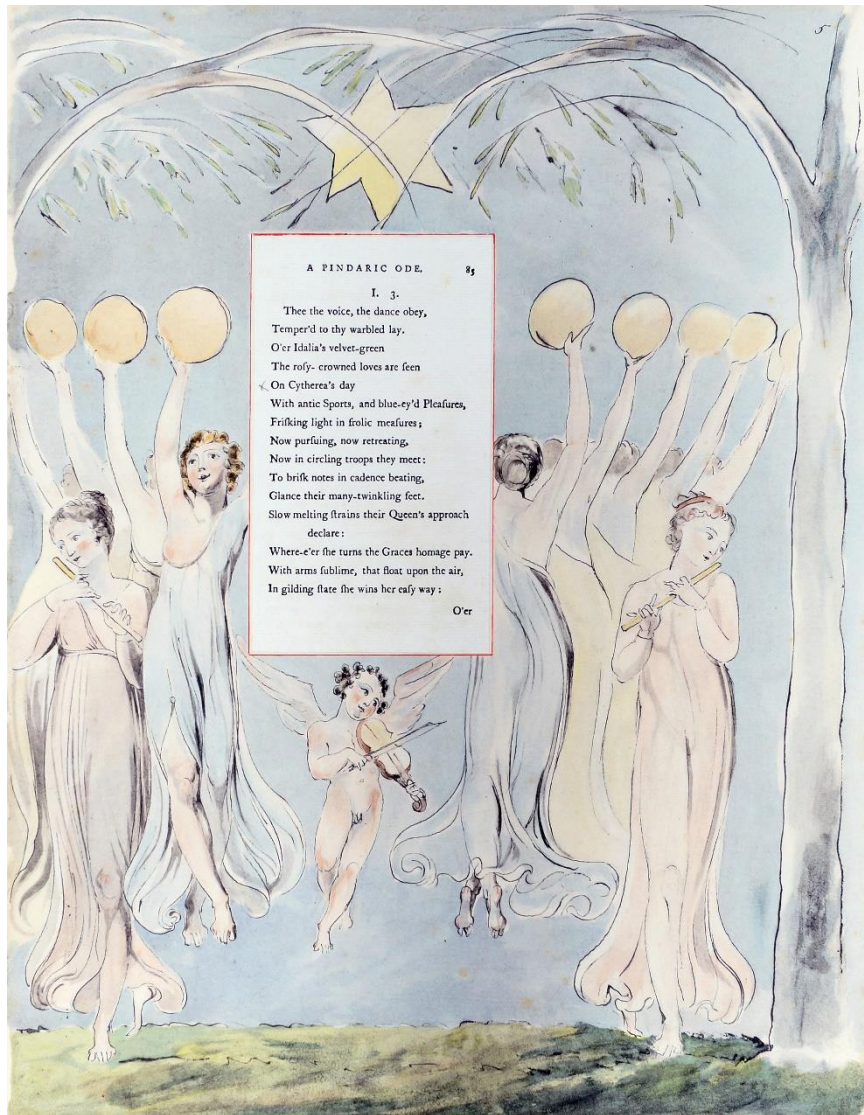


恋知への道のり

20年間の身体の闘いと、
私が輝く私塾と哲学の切り開き



2022年8月24日

武田康弘

白樺教育館

2022年11月6日 初版第8刷

恋知への道のり

20年間の身体の闘いと、
私が輝く私塾と哲学の切り開き。

わたしは、生れながらに病気ばかりでした。

アレルギー体質でいつも湿疹で悩まされました。

2才のときにヘルニアの手術で、聖路加病院に入院したとき、完全介護で、親から離されて一人にされましたが、その時の言葉にならぬ不安・恐怖感は今でも覚えています。それは母の方針だったようですが、こどもに与える心理的な不安の大きさは、大人の想像を遥かに超えるもので、その負の経験は今に生きています。こどもの心への配慮ほど大切なものではありません。大人は平気で傷つけます。



(小学5年生・11才 親友の
木原君の母さんと)

身体の話に戻しますが、幼稚園児の時は、肝臓病で40日間もねたきりになり、その苦しさ・気持ちの悪さは今でも忘れられません。

また、足のひざが変形して、左右が揃わなかったので、少し余分に歩くと足が痛くて眠れませんでした。

小学5年生からは、胃潰瘍で、毎日、朝食後しばらくしてからから昼食時にかけてなんとも言いようのない気持ち悪さ・苦しさでした。この時から虎ノ門病院に通い出しました。それは2年間近く、6年生まで続き、少し治まったかな、と思ったら、今度は、中学1年生の中ごろから、十二指腸潰瘍で苦しみ、20才で導引術の本に偶然に出会ってよくなるまで病院通いは続きました。

でも、足の変形も、複数の内臓病も、アレルギーもみな克服しました。完全に、とはいきませんが、毎日、よいと思うことを繰り返しているうちに、だんだんと治ってきたのです。

そのようにして生きてきたからでしょうが、自分で日々努力する、自分で試してなんでもやってみる、自分の心身の声に従う、というのは当たり前になり、他者の指図で動くことにはプラス価値がないことを身をもってしりました。大病院に通い続け、医師の言う通りにし、毎日、多量の薬を飲んでもよくならなかったのです。それが、自分で見つけた(偶然に図書館で出会った)導引術の考え方で簡単な体操をしたら、グングンよくなったのは、とても貴重な体験でした。

わたしは、それ以降のさまざまな経験で、そのことの大事さを再確認する人生となりました。自分の心身全体で感じ想うことにつき、他者の言うことや判断や見方には幻惑されなくなったのです。他者があるいは世間常識から見てマイナスと思われても、何事もわたしがよいと思えばよいのです。犯罪でもない限り(笑)。それは、幾度も実証されることになり、今に至っていません。

わたしが、なんの組織や団体にも入らず、考え方もやり方もなにもかも全部自分でつくった私塾で仕事をし続けて今日に至ったのは、そういう体験と生れながらの「煮ても焼いても食えない」性質のせいです(笑)。父母とも毎日のような対話(父とは穏やかで楽しく、母とはガチンコの言い合い)は養分たっぷりでした~~~~~。

この毎日のようにしていた対話は、その後のわたしの人生を決定づけたと思います。父は、とても穏やかで優しい人で、猫と犬と伝書バトと小鳥・・といろいろ飼っていました。こども好きで、役所勤めで時間の余裕があったので、毎日のように遊び、学習もみてくれましたが、怒ったことは一度もありませんでした。夜、寝る前は、いつもお話をしてくれましたが、それは、教育のためにとかではなく、こどもと関わるのが好きなので、休みの日には山や川や海の自然の中に、また都内の名所や遊園地に連れて行ってくれました。わたしは、いつでもどこでも質問せめて、父は考えながら、丁寧にこたえてくれました。それは、覚えるのではなく、考えることの面白さや大事さをわたしの心身に沁み込ませたようです。

不思議なほど父は何も指図しませんでした。手助けはしてくれますし、聞いたことには応えてくれますが、何かをすべきとは言いません。とても親切なのですが、こどもに教えるという態度ではないのです。いま思うと、親鸞の他力思想が中学生の頃からの修行で身につけていたのかも知れません(早世した父の父は僧侶でした)。未だボスぎるのような(笑)男権というか父権を振り回す父親もいるようですが、それには百害あって一利なしです。すぐにやめなさい！

反対に、神田生まれの母とのガチンコの言い合い(笑)は、負けない精神をつくったようです。どこまでも主張し合う中で、身体は病気でも、心は折れない、へこたれない、そして引っ込まない、というわけです。

まあ、なんでも自分の頭で考え、自分でやってみる、きちんと主張するというのは、このような環境の中でついてしまった(笑)のでしょう。全然日本的ではないですが、それは最高の幸せです。明治政府が捏造した天皇教という国家宗教の影響はわたしには少しもありませんが、それは人間としてよく生きるための基本条件だからです。

でも、幼いころから人の話しはよく聞き、むやみに我を張ることはなく、幼稚園の通知表にはいつも「人の嫌がることも進んでやる」と書かれ、小学校の教師には「公平・公正なリーダー」と言われ、友人の親には「武田君となら」と信用されていました。祖母にはいつも「康はいい子だ」

(理由は分からない・笑)と言われ、悪ガキではありませんでした。女性の先生には評価され「ひいき」と言われるほどでしたが、ひいきされても意見は遠慮なく言い、6年生の担任を追い込んで泣かせてしまったことがあります。個人主義と利己主義を混同しているので、それを指摘し、先生が反論するので、その間違いを説明したら泣いてしまったのです。わたしには全然悪気はなかったのです。同じことが30才後半に師の竹内芳郎さんの時にもあり、「武田さんはわたしの生き方を認めてくださらない」と泣かれてしまいました。わたしは、竹内哲学を高く評価して、その上で哲学の原理次元における直接経験＝体験の必要と大事さを話ただけなのに。

そういえば、体育会系の男性教師には小学6年生の時と中学2年生の時に2回ひどく殴られたことがありますが、それは教師の勘違いでしたので、母が学校に行き、きちんと謝罪させました。体罰そのものも反省させ、二度としないと約束させました。

わたしの仕事は、とにかく、誰のアドバイスもなしでしてきました。全身の細胞で考える！ 自らの心と身体と頭のすべて使って、感じ、思い、考え、行動して生きてきわけです。

教室の備品も自分で工作しました。教室の大きな引っ越しも二度、自分でやりましたが、これには、教え子や鎌ヶ谷とわの会のみなさんが大いに助力してくれました(感謝)。

古い教室を改築したときも、2002年に始まる白樺教育館の設計(完成は2004年1月)も、具体的な細かな寸法を含めて全部わたしが決めました。



時間は戻りますが、1979年にはじめて高額のローンを組んで大型反射望遠鏡を買い、古い貸家の狭い庭に設置した(写真)のは昨日のよう。43年前ですが、ローンを組むとき怖くて震えました。望遠鏡は今も白樺教育館屋上で現役ですが、我孫子天体観測所として生徒や父母、近所の人たちに月面や惑星面をお見せし、自宅が出来てからは屋上で観望会。ハレー彗星接近のときは、多い日は一度に50名ほどの人に見てもらいました。1994年のシューメーカー・レヴィ第9彗星の木星衝突の時には、全くの予想外、木星面に数個の大きな黒い斑点を見せてくれました。世界中の天文学者は地球から望遠鏡で変化が見れるとは誰も予想していませんでしたので、仰天！「おおっ、うそ！」と叫んでしまいました。慌てて中1の息子に見せました。

一つづつ思い出を書いていたらきりがないのでやめますが、とにかく嫌になるほど一人になにかもかです(笑)。オリジナルの塊ですが、誰もやったことがない事業なので、そうするより

ほかになかったのです。

ここで一休み。わたしの趣味の話。

小学3年生からの写真趣味は、段々と昂じて独学で暗室作業を覚え、天体写真、月面や惑星面の引伸しのために、細かな焼き込みや覆い焼き、数枚を重ねるコンポジットなどの技術を身に付けて、天文雑誌に投稿するようになりました。

大学生のころからは、ピアノの発表会の写真などの仕事もして稼ぎました(趣味ではない〜笑)。また選挙のポスター写真も多く撮ってきましたが、従来の形に囚われずに人間味の出た写真を目指し、喜ばれて収益にもなりました。

息子が生まれたころ、偶然の出会いで親しくなった造形作家の松岡信夫さん(当時は売れていなかった・笑)の依頼で、鉄の作品の写真を撮り、暗室技術を高度に駆使してオリジナルプリントをつくり差し上げたりもしましたが、見返りに松岡作品を幾つも頂きました(笑)。わたしの門扉(全倍に引伸)や照明器具(案内状)の写真にプロが脱帽したというのは、嬉しいこと。松岡さんとは40年以上、密で長いお付き合いが続いています。

また、秋葉原の隣、神田須田町に住んでいましたから、中学3年生の終りころからよい音で音楽を聴きたい一心でオーディオにのめり込み、1週間に3日は散歩がてらに視聴室通いで耳を鍛えました。同時にスピーカーを自作し、次第に大型のものをつくり内容積155リットル×2、+38cmスーパーウーハー200リットルという大型システムに至り部屋を占拠することになりました。18才のときです。アンプは大型の真空管で、LPプレーヤーは砂を充填した強靱な躯体の箱を自作し、音楽やオーディオ仲間みなに絶賛されました。高校生時代にアルバイトで得たお金を全部つぎ込んで、それでも足りないので親や祖母に出してもらいました。

そういうわけで、多くの経験を積んでよい音をつくるのが特技になった為に、人に頼まれて、たくさんの装置を組むことになりました。数百万円のものまで含めて優に数十組はつくりましたが、見返りもあり、実益も(笑)。どうも趣味と実益がついて回ります。

このころは大好きな海のほかに、体力づくりも兼ねて奥多摩や奥武蔵での山登りも頻繁にしました。ただ、わたしは足に弱点があるので、3000m級の高い山は、北岳に3回、仙丈岳に一度でお終いにしました。

高尾山には、星を見に口径8cmの小型の反射望遠鏡をかついで親友の鈴木英男君と夕方(時には夜)に登り、明け方まで星見をして朝、始発の京王線で帰るといふのをよくやりました。一晩中、冗談話から天文学や哲学や政治や社会問題などの話しをしてとても楽しかった！中3の終りの時からです。その頃は、高尾山に行く人は今とはちがひ、さほどいませんでした。

43年間続けたキャンプ&ダイビング 伊豆七島

幼いころから一番好きなのは海！ダイビングは18才のころ(1970年)から主に一人で外房、南房総、荒崎、伊豆半島のあちこち、伊豆七島の大島、式根島、神津島、三宅島で冒険しましたが、その経験が後に、【こどもたちのキャンプ&ダイビング】に繋がり、月刊『マリンダイビング』誌で1980年から10年間にわたり記事を書くことにもなりました。67才の時まで43年間続けましたが、新型コロナでキャンプ場が閉鎖、同時にわたしの足の痺れと痛みでストップですが、来年から再開できればいいな、と思っています。

わたしが18のころから海に潜っての遊びをしていた時は、まだダイビングという言葉はあまり使われず、「素潜り」と言っていました。素潜り15mはなかなかのもので、5階建てのビルと同じです(最高は式根島大浦湾沖で20m)。息止めの練習はよくやり3分間できました。70歳になった今もプールで35メートルは息継ぎなしです。



(2015年 63才 式根島)

わたしはこどもたちを連れて海で自由に遊ばせるために、体力づくりをかかさずに行っています。学生時代に科学的トレーニングの本を読み、一人で基本に忠実に筋力や敏捷性を鍛えてきましたが、それが「相撲無敗」伝説を生み、合気道日本一の自衛官(妻の従妹)にも勝ってしまいました。他人と競わないマイペースは大きな成果を生みます。何事もそうです。

43年間(4泊5日・船中1泊)真夏の炎天下でハードなキャンプを続けましたが、事故はありません(足の裏を割れた瓶を踏んで怪我をした子がいただけです)。

熱中症になった子も一人もいません。髪と帽子をびしょびしょに濡らすのは必需ですが、大事なことは心にストレスを与えないことです。自由自由自由、自由の時空間を保障すると、こどもは上手に自然に溶け込みます。大人が普段からそういう精神で生きていないと子どもを自由に遊ばせることはできないので、実行できる大人はほとんどいません、大人はツマラナイ常識に囚われていて、その枠内に子どもを入れようとします。愚かです。今まで心臓病の子も、ひどい喘息の子も、皮膚アレルギーの子も参加しましたが、みな元気潑刺！薬を飲むのも忘れます。ストレス蒸発は最高の薬。わたしはキャンプ&ダイビングをはじめさまざまな野外活動で「自由こそは安全への道」を実証してきました。

2018 年には、エリアカザン(株)の社長に頼まれて、¹⁾ [中国のシュタイナー学校の子どもたち 23 人](#)を式根島の海で遊ばせ、海中の美しさを全身で知ってもらいました。夜は雲かと見まがうほどの天の川とわたしの宇宙の話しに子どもも引率の大人も大感激で、みなが「日本で一番いいところは式根島」と言い、子どもたちは、翌年も「武田先生と一緒に式根島に行きたい」と学校で運動を始めたとのことでしたが、7月上旬ではわたしは授業なので無理、残念ですが、諦めてもらいました。



1983 年の神津島キャンプダイビング 31 才

毎日の楽しみは、音楽です。小学生の低学年から母の亡くなった兄が所有していた SP レコード(78 回転)をかけて遊んでいました(ワルター指揮の田園、フルトヴェングラー指揮の運命など)。すぐ終るので全曲聞くのがたいへん！

中学生になってからは、LP レコードを買い始めましたが、一月に一枚買うのが精一杯でした。高校1年生からは、吹奏楽部でトロンボーンを吹き、音のよさを皆に褒められたのは自慢です。今、CD は 2500 枚ほどありますが、音楽を聞かない日はありません。昔も今も、一番好きなのはベートーヴェンです。シューマンのことは通り「バッハの深い境地、モーツァルトの高い境地、ベートーヴェンの深さと高さを併せ持った境地」です。人間のあらゆる感情の表出、命の律動の強さ、強靱なイデー、優しさ、数十年間、感動しっぱなし～～。ベートーヴェンが言う通り、「わたしの音楽は、どのような思想や哲学も超えた啓示だ」「わたしの音楽の意味を見ぬきえた者は、どのような人生の悲惨にも打ち勝つだろう」 その通り！！

わたしの敬愛する指揮者は、20 世紀のクレンペラー(ユダヤ系ドイツ人)。今は、クルレンテ

イス(アテネ生まれのギリシャ人)です。

一番深く印象に残っている演奏会は、21才のとき1973年に初来日したムラヴィンスキー指揮レニングラードフィルです。曲目はショスタコーヴィチの交響曲6番とチャイコフスキー交響曲5番で、親友の鈴木英男君とです。次に2019年2月に初来日したクルレンティス指揮ムジカ・エテルナです。曲目はチャイコフスキーヴァイオリン協奏曲(ソリストは同伴者で世界最高のコパチンスカヤ)とチャイコフスキー交響曲4番。これは、白樺の仲間や作曲家の二宮玲子さんを誘ってです。また、2015年、皇太子(現天皇の徳仁さん)が一人に来ていた為なのか全力で弾いていたウィーンフィルにも感嘆しましたが、素晴らしい演奏会はたくさんあり、あげるとキリがないので、前者の二つとします。

趣味の話が長くなりました。話を戻します。



高校2年生の時(1968年)に、各クラス委員の全員賛同で、わたしは全学議長に選ばれ、校長及び学年主任などの教師たちとの話し合い(生徒はわたし一人に先生側は三名)により、校則の大幅自由化とゼミ式授業の導入などの学校改革を成就させたのですが、高3のとき、それをNHKの「10代とともに」(69年5月2日放映・写真)という番組で話し、当時の東京都教育委員会の小尾帛雄委員長と討論になり論破！みなに褒められました(笑)。

高校改革の成功をよい経験として、24才の時1976年に私塾(当時は我孫子児童教室という名称)を開き、同時に我孫子児童教育研究会を主宰し、1987年からは我孫子哲学研究会も開きました。

1976年(24才時)に始めた私塾では、従来の公式あてはめや丸暗記による学習ではなく、**意味を掴む哲学的な学びを実践**することを工夫し、まだまだ受験知の残滓がある自分自身の**変革と、こどもたちの新たな学びの方法の探求の双方を同時に行いました。**

このわたしの私塾の方法と考え方については、依頼されて『環境会議』の2012年の春号に記しました「**全身の細胞で考える・知の冒険を始めよう**」惰性態から脱するソクラテス対話の**力**という表題です。そこから一部を抜粋してご紹介します。

小学生からの勉強の仕方が自分の頭で考えるための鍵

……では本題です。自分の頭でイキイキ考えるためにはどうするか。白樺教育館のソクラテス教室でわたしがしていることを少しお話します。まず小学生の音読ですが、「スラスラ上手に

読めるように」はよくありません。アナウンサーのように読むのは外側からの読みで、内側からの知を育てないのです。情景を思い浮かべ、感情移入し、意味をつかみながら読む練習をします。ゆっくりがよいのです。このような読み方を身に付けると、文脈に沿って全体の意味をつかむ能動的な読書が可能になります。部分読みの「受験国語」の達人は、字面しか分からず、愚かです。

どのような学習でもみな同じですが、目的は「意味をつかむこと」ことです。

算数でいえば、公式を覚えてあてはめる学習は、外付けの知でしかなく内的な論理の世界が広がりにません。例えば、面積は広さを数字で表す必要から生まれた概念ですが、元の意味がわかれば、公式などしらなくても誰でも納得でき簡単に解けます。体積(おおきさ)も同じ。速さの問題も三つの公式を覚えさせるのは無意味です。速さという概念(一定の時間にどれだけの距離を進めるか)が了解できると、時間や距離を求めることも簡単です。

ただし、計算問題で理屈を先行させるのは禁物。1年生であれば、 $10-1$ から $10-9$ までの計算を何十回も繰り返すことが先です。それが身体化しないと、繰り下がり引き算の意味を教えても、うまく頭に入りません。これらはほんの一例ですが、さまざまな教科において、このような方法論がイキイキ頭を生みます(全文は、²⁾ [白樺教育館のホームページ 139](#) をご覧ください)。あっ！一番大切なことを書き忘れました。すべての大人は、自分が知っていて、こどもに教えるという態度ですが、そうではなく、またゼロから一緒に考えるのです。う～ん、こうかな？ あれっ、難しいね。ああ、こう考えたらいいかな～、そうすることで子どもは内的に意味を追い考えるようになっていきます。大人への授業でも同じことです。何事も始めからまた考え直してみる、という態度が大切です。



(1987年竹内宅で竹内63才 私35才)

哲学研究会では、西欧哲学を熟読し、近代社会を拓いた思想を主体化するために努力し、日本の封建道徳(儒教による)と明治政府がつくった【天皇教という国家宗教】の悪弊を大元から断つために、新しい人間の生き方と社会を拓くための哲学的思想づくりに没頭しました。

その過程で、哲学者でサルトル等の邦訳者・竹内芳郎さんの全著作を精読しましたが、わたしの教え子の綿貫信一君が絡んで深い交流に発展し、後日、「討論塾」立ち上げにつながりました。それについては、³⁾ [「竹内芳郎さんとの出会いと交際」](#)をご覧ください。

また、その後に友人となった竹田青嗣さんとのことは ⁴⁾ [「竹田青嗣さんとの出会いと対談」](#)に記しました。ともに白樺教育館ホームページ ⁵⁾ [白樺だより227「恋知エピソード1」](#)。二人とは異なるわたしの恋知(フィロソフィーの正訳)についても記してあります。

ただし、わたしは、読書としての哲学とは異なり、わたし自身の体験としての哲学を目がけたのです。書物としては、中学2年生のとき、帰りの東大正門前にある書店で、ヤスパースの「哲学入門」を買ったのが最初でしたが(神田から越境入学で文京区立第六中学校に通っていた)、共感する箇所とまったく受け入れがたい考え方が共存する本でした。その後に読んだ思想・哲学の本はみな同じで、西洋人独特の思想には利点もありますが、腑に落ちない考え方も多く、きちんと読みましたが、このままではとても現代世界には通用しないと思いました。キリスト教という独特な思想が、自然さをそこなっているのです。

無神論とか唯物論といわれるものも、キリスト教の神を意識したアンチなので、仰々しくわざとらしいのです。ですから、わたしは、日々の体験を基にして自分の頭で考える営みを日課として哲学をしてきました。本を読んで他人の考えを覚えるのではなく、自分自身で考えるのは、楽しく面白く有益です。

今も昔も哲学書を読む人の多くは、他人が読めない難しい本を読んでいることの優越意識の獲得なので困ります。また、「哲学言語ゲーム」という特殊な趣味を哲学だと主張するグループもあります。

わたしは、哲学書の研究をしてきたのではなく、哲学する者として生きてきたのです。自分の頭で考える喜びを広げてきました。雑多で混乱した考えを分明・明晰にしてまとめるのには快感があります。狭く固定した見方や思想から自由に羽ばたくのは幸せです。新たな考えが湧いてくる嬉しさはなんとも言えません。ソクラテスの哲学者(正しい訳語は恋知者)の定義は、「知を求め、美を愛し、楽を好み、恋に生きるエロースの人」です。人間のもっとも高い魂は、そこにある、と言います。なんと素晴らしいことでしょうか！！

わたしは、高校、大学の時にはマルクスの本もよく読み、感動もしましたが、共産主義のつく理論や現実運動には違和を感じて離れました。自由、豊かさ、魅力、に乏しいのです。

わたしは、小学6年生のとき、欲望と言う概念に悩んでいました。祖父(父の幼いころに亡くなったので知りませんが)が僧侶で、父も半分僧侶(勤めは労働省)でしたから、釈迦のいう煩惱という欲望について考えていました。人間が生きるのはすべて欲望なのだから、欲望をなくしたら生きられなくなる、どう考えたらよいのかを悩んだのです。そして分かりました。欲望の種類が問題で、欲望自体は悪いことではなく、よいことだ。自分に、また他の人にもプラスになる欲望があり、マイナスになる欲望もある。それを見極める事が必要で大切。そう考えたのですが、それはその後、今日までずっと同じです。欲望の大きなことはよいことで、その質、ありようを吟味して、世間の見方ではなくて、自分の真心からほんとうに「よい」と思われる欲望を追及するという人生です。自他が得する徳の追及です。欲望は階段をのぼり高まっていき、最大・最高の欲望は、善美そのものを目がける欲望で、花咲じいさんが、枯れ木に花を咲かせたいというのは、欲がないのではなく、最も大きな欲望です。

小学生の「政治クラブ」から公共哲学論争へ。

時間は戻ります。小学5年生のときにクラブ活動がはじまりましたが、社会問題に関心が高かったので「政治クラブ」をつくってもらいました。そこでは天皇主権の明治の「大日本帝国憲法」と国民主権の「日本国憲法」との比較をしたり、資本主義と社会主義の違いや優劣を生徒同志で討論しました。新聞の社説も読んでいましたし、果てはアランの幸福論について話しあったりしました。政治を超えて**哲学クラブ**のようでした。

そういう経験が小学生の時にあり、そこから社会、公共問題についてはいつも自分なりに考える習慣を持っていましたが、53歳のとき2005年にAmazonに『公共哲学とは何か』(ちくま新書・山脇直司東大大学院教授著)に対して辛口の批評を書いたのが切っ掛けで、東京大学を中心に千葉大学、学習院大学、法政大学などで展開されていた【公共哲学運動】の第一人者である金泰昌(キム テチャン Taechang kim) = 東大出版会刊のシリーズ『公共哲学』全20巻の総責任者がわたしを訪ねて来られ、自宅と白樺教育館で半日をかけて対論となりました。



(Kim 72才 わたし 54才)

わたしは、そこで、東大出版会の編集方針である「公」と「私」を媒介する「公共」、という思想に対して、明確に否と言ひ、その思想は、民主主義の原理に反すると述べました。そこから Kim さんとの長い交流が始まりましたが、その時、偶然にわたしが主宰する「ソクラテス教室大学クラス」に通う荒井達夫さん(参議院調査室勤務)が [6\) 公共哲学論争](#)に関心をもったために、事態は思わぬ方向に発展しました。

わたしより2歳年少の荒井達夫さんは、我孫子市の湖北に住む国会所属の官僚ですが、自民党の参議院議員が新憲法をつくるにあたり、法案作りの専門家の荒井さんに、「日本の国柄に合わせたいので社会契約説に依らない憲法案をつくりたい」と相談に来たとのことでしたが、「社会契約とは何か？ 社会契約ではない憲法案とはどういうものか？」が全く分からないので、というのでわたしに教えを請いに大学クラスに通っていました。

そこでルソーの『社会契約論』を中山さんの新訳で、ジュネーブ草稿も併せて載っている光文社文庫を使い、授業をして、主権者を国民とする近代社会を拓いた哲学思想であり、これに依拠しないというなら明治憲法に戻して天皇中心とするほかないが、それはありえない思想で、国連から追い出される！(笑)ことを教えたのでした。それにしても自民党国会議員のあまりの低次元(思想音痴で頭が悪すぎる)には呆れ返りました。



(参議院で討論 55 才)

そこから前代未聞の [7\) 参議院調査室主宰での討論会](#) となったのです。2008 年 1 月に金泰昌さん(キムテチャン Taechang kim、公共哲学の最高責任者)とわたし武田と山脇直司さん(東大教授で Kim さんに私を紹介した人)と荒井さん(参議院調査室)の4名により行なわれ、聴者は、各調査室の室長と首席、それに人事院からも 7 名の都合 40 名余でした。参院史上初!といわれる激論が関わらせられましたが、Kim さんや山脇さんの主張する「公共」の概念には大きな疑義が持たれ、民主制の原理につくわたしの思想が通り、結果として、人事院から以前より公務員研修(初任者研修と課長級研修)を依頼されていた Kim さんは、4 月からの依頼がなくなり、研修は終わりました。

(Kim さんを人事院に推薦したのは、第 27 代東大総長の佐々木毅さんです)

このことの経緯は、[8\) 『恋知第3章 民主制と公共思想』](#)に詳しく書きました。これは、参議院行政監視委員会調査室より参議院議員にも [9\) 配付されました](#)。なお、Kim さんと私の [10\) 哲学往復書簡30回](#)は、東大出版会より [11\) 『共に公共哲学する』](#)のメインとして出ました。

そうした経緯も影響したと思いますが、荒井達夫さんの強いプッシュもあり、わたしは、[12\) 参議院行政監視委員会の客員調査員](#)に任命され、国会所属の官僚たちに、哲学と日本国憲法の哲学的土台を講義することになりました。「武田先生の講義は面白いが、自分で考えるところに追い込まれるので、頭が疲れて真っ白になる。講義の後は仕事にならない」ということに(笑)。2009~2010 の 1 年間でした。

同時期、2010 年 6 月には [13\) 『新しい公共について考える』](#)と題するパネルディスカッションが参議院で行なわれ、旧友たち(竹田青嗣・福嶋裕彦)と元検察官で民主派の郷原信郎さんとわたしの4名で、「新しい公共は、国家の公ではなく、市民の公共である」ことを確認したのでした。

我孫子市の中学校、丸刈りと体罰との闘い—千葉県全体を変える

時間は戻りますが、1986 年にはじめた社会を変える実践は、我孫子市の中学校で行われていた坊主頭の強制と、体罰の日常化をやめさせたことでしたが、これは、大変な力技となりました。新聞もテレビも入り込んで、我孫子市全体が異様な状況になり、まるで革命前夜? のようでした。私の活動を朝から晩まで追いかけて日本テレビの徳光さんのニュース番組が2度も特集を組み、「我孫子丸刈り強制」の文字は新聞のテレビ欄に表示されて、わたしの言動と日々動く状況とは完全に一体となったのでした。ついに運動は成功し、その余波は千葉県全体におよび、我孫子市のみならず、大多数の市町村では丸刈り強制が撤廃されることになったの

です。これについては、岩波書店から依頼され、月刊誌『世界』92年8月号に、運動のはじまりからおわりまでを 35 枚にまとめて書きましたので、ぜひ見てください(白樺教育館ホームページ 14) [5 我孫子丸刈り狂騒曲](#)で見れます)。

「オンブズマンと情報公開を考える会」

その後しばらくして、我孫子市に「情報公開条例」をつくらせる活動をしましたが、わたしは、「オンブズマンと情報公開を考える会」の会長として、何も分からぬまま本を買い込み、メンバーで学習会をし、訳知りの人に来てもらい話しを聞き、核心点をつかむよう努力しました。ところが、始めたばかりなのに朝日新聞千葉版の記者が取材に来て、わたしの話しを大きく取り上げた為に、総務省から「国の情報公開法制定の参考にしたいので」と電話があり、弱りました。内容よりも形が先立ってしまったのです。

会のメンバーは、わたしの友人たちで、市議会議員の福嶋浩彦さん、市議で弁護士の中野高志さん・弁護士の佐藤典子さんなど 6 名でした。まず、我孫子市長に情報公開条例をつくるように要望書を出し、市は了承しましたので、条例案の中間報告書を出すように働きかけ、それが提示された時点で、担当個所を分担して問題点を洗い出し、わたしたちの会の案をつくり、市の担当者と話し合いをもちました。行政法については弁護士は知らない(司法試験で行政法を選ぶ人はほぼ皆無、行政法は国家公務員試験では必需)一番知っていたのは、日々の仕事で行政法を使っている福嶋さんでした。とにかく夏の暑い日に連日みなで勉強し、まるでこどもの夏休みの自由研究のよう(笑)。大変でしたがよい思い出です。

結果、決裁前の文書も情報公開の対象に含め、議会情報も含めるという千葉県初の我孫子市の情報公開条例が出来ましたが、市議会ではわずか一票差での可決でした。汗が出るやら肝が冷えるやら。

福嶋我孫子市長誕生までのドラマ 舞台裏を今だから明かせます。

これは、全くの偶然ですが、95 年 1 月の千葉県初の [25\) 市民派市長＝福嶋浩彦市長誕生](#)へと結びつき、翌年の情報公開条例の施行は、なんと福嶋さんの手で行われることになりました。実は、福嶋選挙を実際に行うことになったのはわたしなのですが、その 4 年前に始まる長いドラマがあるのです。今ならすべて明かせますので、簡明に記してみます。

わたしの発案ではじまった福嶋市議の [15\) 『緑と市民自治』](#)紙(新聞折込で我孫子市全戸に配付)の編集(注1)はいつもわたしの自宅でおこなっていましたが、1990 年の春、来年 1 月の

市長選は、市民から候補を出したらどうでしょうか、との福嶋さんの話しに、わたしは、それはよいと応じ、市民運動をしている幾つかのグループに呼びかけて運動がスタートしましたが、なかなか候補になる人を見つけられず、坂巻さん(今の坂巻宗男市議の父で故人)が候補にあがりましたが、我孫子市の現状を変革するという点では疑問との声があり頓挫しました。そこで社会党の県議で市民グループとも近い栗山栄子さんに女性陣がお願いしましたが、現職との一騎打ちで勝つ見込みが少なく、1月の市長選の後にすぐ4月に県議選があるので、とても無理と断られ暗礁に乗り上げました。福嶋さんは、候補者が決まらなければ自分が責任をとって出るしかない、との思いでしたが、新左翼運動で筑波大学を退学になり、まだ力のない福嶋市議では選挙にならない、次はないので彼のためにも市民運動にもマイナスだと思い、悩みました。

わたしは、前年89年にNHKブックス「現象学入門」を出した竹田青嗣さんの見事な現象学解釈を広めるために、90年9月24日(祝)に我孫子市民会館で「ほんとう」とは何か(真理論)と題する講演と対話の会を催し、全戸配布の『緑と市民自治』紙に詳細な案内を出しました。これは従来のマルクス主義的な発想を認識論の元から断ち、新たな社会＝市民運動を支えるための試みで、世界でまだ誰も取り組んだことのない画期的なものでした(自画自賛ですがホントウです)。この日は、福嶋さんは韓国に行っていて会にはでれなかったのですが、栗山栄子さんは聞きに来ていて、会が終了しても残っていました。

竹田青嗣さんと栗山さんと私の3人になりましたが、竹田さんがトイレに行っていた3分間で話しをつけました。わたしは栗山さんにどうしても市長選に出てほしい、その変わり、栗山さんが懸念している2点を解決する約束をしました。以前より栗山さんはわたしを信用していましたので、即座に了解してくれました。これで市長選は堂々とした選挙になる、日本初の女性市長を我孫子市から!とのキャッチフレーズは面白く意義深いし、福嶋さんがおわりにならなくて済む、ホッと安堵しました。

わたしと激論して生き方を変えた佐野力さん(哲学研究会の中心メンバーでS&I社長、この後すぐオラクル初代社長)に選挙のトップをやらしてもらおう～～～これを一瞬で決めました。

この選挙は女性市長が誕生するか(当時は日本には女性市長はいませんでした)と話題になり盛り上がりましたが、わたしが予想していた通りに負けました。2.5万票 対 2万票。票差もほぼ予想通りでした。

その4年後の春、またわたしの家で編集中、福嶋さんと二人で話していて、今度の市長選は不戦敗でもいいか、大きな選挙をやるのは大変だからね、と。正直なところ精神的な疲労感が

残っていたのです。

ところが夏になり、事態は急変。いまの大井市長では能力不足でどうにもならない、福嶋さん、やらないか、と保守系4人の市議から声がかかったのです。保守系と社会党(今はないが)の市議で福嶋さんを推す、これは行政を変えられる千載一遇のチャンス、千葉版にも福嶋さんの記者会見が載りました。ところが、状況が不利になり、今まで市長選のたびに巨額の選挙資金を使ってきた大井市長は親戚の説得で降りることになり、福嶋市議一人が先行することになりましたが、秋谷明市議が名乗りを上げ、続いて新進党の松島わたる市議も名乗りをあげました。このまま三つ巴になれば、保守系が分裂なので勝てる見込みがありますが、一本化されればとてもかないません。

そこで、わたしは、親しい柏市の松崎公明県会議員(後96年より衆議院議員)に極秘の頼みごとをしました。外で合うのはマズイので、白山の村田源子さんの家を借り、じっくり話しました。わたしは以前から福嶋さんを松崎さんの家に連れて行き、社会問題や政治やらの談議をしていましたので、彼の人柄や考え方は松崎さんも知り、評価していました。そこで福嶋市長誕生に力を貸してもらったのです。秋谷さんも松島さんも親分格の松崎さんの家には行きますので、二人に、「互いに切磋琢磨してガンバレ！」とエールを贈ってもらうことにしたのです。一本化の逆をお願いしたのでした。彼はもう故人になられてしまったので語れます、証人は村田源子さんただ一人です。

最後までねじり合うような激しい激戦になり、途中で福嶋夫人の夏子さん(故人)は不安から周囲の人を驚かせる行為もしました。わたしは、夏子さんに約束しました。「必ず勝つ、今までみなわたしの言った通りになってきたよね。心配なくていい」と。

3枚目の大前研一さんの推薦ビラを選挙前々日の明け方に仕上げて印刷所に運びましたが、これはおじさん層には効きました。その前に「緑と市民自治」で、わたしの教え子中心に若い子が顔写真入りで訴えた新聞は、画期的で、11万部刷り、新聞折込で2回入れたほか手配りでも2万枚。

選挙結果は、福嶋浩彦(38才民主リベラル)16,462
秋谷明(53才自民党系)15,091 松島わたる(59才新進党系)11,111 藤本正利(65才共産党)2,312

他陣営からは、女こどもの選挙とばかにされ泡沫候補とまで言われた私たちが勝ちました。



千葉県初の市民派市長誕生から21年後、2016年1月1日
ちよど!(笑)の写真。
福嶋浩彦 59歳 武田 63歳 武田宅で。

白樺文学館をゼロから創りあげる。

1999年2月に始まる「白樺文学館」をゼロからつくる作業は、わたしの人生の中でも最も忙しい時でした。わたしの哲学研究会の熱心な参加者でわたしとの討論＝激論の中で人生を変えていった佐野力さん(日本IBM営業部長⇒S&I 社長⇒日本オラクル社長)の発案で『志賀直哉文学館』としてスタートさせた事業でしたが、直哉の長男の直吉さんから「父の遺言により記念館の類をつくることは一切お断りします」との手紙が届き、頓挫してしまいます。そこでわたしの発案で9月半ばから『白樺文学館』として再スタートをすることになりましたが、そのドラマは 16) [【白樺文学館創成記】](#)に詳しく記しています。面白い＝凄まじい(笑)と思いますので、ぜひご覧ください。

土地の買い取り、理念づくり、資料収集、建物のコンセプトづくり、細部の決定、すべてをわたしがやりましたが、それについては、[【創成期】](#)をご覧くださいととして 17) [【誕生秘話の4】](#)のみを以下に転写します。



「私の願の絵」を描く
周さん。
(大沢家で)

大沢家にて。左から武田、大澤夫人、周さん(武田の絵を描いているところ)。

2000年6月10日 撮影:大沢治平さん



大沢家にて。左から武田、周さん。完成し

● 誕生秘話 ●

4. 白樺派の5人- 肖像画 (周剣石・画)

誕生の経緯

「我孫子に白樺派を記念する文学館を開き、運営するのならば、その彼らの燃えるような青春の息吹を伝えるものでなければ意味がありません。「白樺」廃刊後の功なり名遂げて別々の道を歩んだ彼らの後年を記念してもダメです。」と以前書きましたが、「白樺文学館」を創るにあたって、わたしは、我孫子時代の若き彼らのよい顔写真が揃わず、困っていました。

そのとき、『哲学研究会』(主宰・武田)に参加したところのある中国人の画家・周剣石さん(東京芸大の大学院で漆絵を研究した後日本に滞在)が、中国精華大学の副教授の職を得て帰国することになりましたが、帰る前に「武田先生へのお礼として肖像画を描かせて下さい」という申し出がありました。そこで、周さんを紹介してくれた大沢治平さん(わたしの生徒のお父さん)の自宅(我孫子市高野山)で描いてもらうことになりました。

絵が出来上がったとき、閃きました。そうだ、我孫子

た絵を受け取る瞬間。
2000年6月10日 撮影:大沢治平さん



熱心に写真に見入る周さん。
武田宅で。 撮影・武田康弘



白樺派の5人 画・周剣石さん
(現在、中国精華大学美術学院教授)

創造の地—我孫子



白樺文学館パンフレット
(12ページ・発行5万部)

に集まった白樺派の人たちの顔を周さんに描いてもらおう!と。そこで早速そのアイデアを話したところ、周さんは快く引き受けてくれました。その日と翌日、都合10時間にも及んで、白樺派の5人の人柄・思想・行動、それに時代状況などを話し、出来るだけ鮮明な我孫子時代の彼らの顔写真を渡しました。残念ながらリーチの若い頃の写真は鮮明なものがなく、イメージ喚起のために後年の写真も含めました。

周さんは、わたしの話から日本における白樺派の価値を深く認識し、強力な同伴者であったリーチを含めた5人(柳宗悦、兼子、志賀直哉、武者小路実篤、バーナード・リーチ)の顔を描くことに全精力をかけ、短期間で仕上げてくれたのです。それが「白樺派の5人」の肖像画で、12ページの豪華パンフレット(発行部数5万部)の表紙にはこの絵を使ったのです。

我孫子市教育委員会の発行する社会科の副読本『ふるさと手賀沼』には、「文化を育てた人々」として白樺派の紹介がありますが、そこで使われている写真は、みな彼らの晩年のもので、これでは生徒に誤解を与えてしまいます。彼らが我孫子に住み、白樺派として創造的な文芸活動をしたのは、血気盛んな20代～30代だったのですから、この周さんの描いた肖像画を使うようにしたらよいと思います。

参考

- (1) 白樺文学館 開館顛末記
18) 「[9.佐野さんのこと、周さんのこと](#)」
白樺文学館オリジナルホームページより
- (2) 白樺文学館 開館顛末記
19) 「[13.文学館の顔、小林多喜二への書簡](#)」
白樺文学館オリジナルホームページより

2009年 5月9日 武田康弘

続けて『白樺教育館』の建造と理念と現実。

わたしは、白樺文学館のすべてをつくり、2001年1月11日の開館のあと、8月末までは館長として運営にあたりましたが、その後は、本職に戻り、『白樺教育館』の建造に全精力を傾けることになりました。なんと超がいくつもつくハードな展開でしょう～～(笑)

まず、2001年秋から始まる教育館建造は、当然のことながら理念づくりからスタートさせましたが、建設費用の捻出には頭を悩ませ、とても苦勞しました。文学館の所有者は佐野さんでしたが、教育館は土地も建物もわたしの所有ですから、う～んどうしよう。

佐野力さんは、わたしとの出会いで人生が変わり、日本オラクルの初代社長となり、9年後に株式店頭公開で巨額、否、超巨額のお金を得たのですが、経営の爆発的な成功を支えたのは毎週土曜日の6時間にもわたる拙宅での哲学研究会での学び＝わたしが提示した思想でした。また家族ぐるみでの長年の親交もありましたから、教育・文化事業へのメセナになってくれるのでは、という希望を持ちましたが、佐野さんには個人メセナをする考えはありませんでした。

わたしは2年6か月間の仕事＝文学館のゼロからの創造と館長を辞す退職金として手取りで約2500万円ほど(総額は3000万円)を頂きましたが、これでは新たな教育文化事業は不可能で、建物だけでも無理です。そうした事情を妻の父に話して、建物については資金を出してもらおうことになりましたが、限度いっぱいでも建築費用にとどきません。大成建設は、わたしの強い情熱と文学館建設も大成を指名したこともあり、また自宅も大成パソコンでしたので、大幅な値下げで協力してくれました。後から変更した追加の費用もゼロ円で、とても助かりました。

わたしの私塾の発展

我孫子児童教室⇒ソクラテス教室(白樺教育館)

1976年に私塾を古い平屋を借りてはじめました。全学議長として高校改革を成就させて、大学時代は現代日本の問題の根を哲学次元で探るために猛烈に勉強しましたが、それに応える教師はいないので独学と同じでした。日本の教育は元から間違っていることを強く実感していましたから、自分の考えとやり方を貫ける【私塾】には大きな魅力を感じて、多少でもお金が貯まったらすぐにはじめようと決意していたのです。

24才の時に一人でスタートさせましたが、何も分からず、家庭教師以外の体験もなしでした。先の見通しが立たず不安で指先まで痺れてしまうような日々でしたが、やりがいと面白味はたっぷり、日々、新しいアイデアの現実化のために奮闘しました。生徒募集には、ガリ版で相

当に過激な(笑)教育批判を書いたチラシをつくり、一軒づつ歩いて説明して回りました。4人からのスタートでしたが、2年後に急に生徒が増えて30名以上になり、授業も毎日が創意工夫の連続で、クタクタになるほどの充実。



でも、それは今日でも同じで、新しい子が入るとその子のためにどうするか、を考えます。進学教室に通わされてスレてしまった子への対処はうまくいかないこともあります。意味を掴(つか)もうとする基本がなくパターン知を仕込まれていると、意味論(哲学)としての知を獲得させることが困難になるのです。まだ小学生低学年だと、知を身体化させることが可能で、ただのやり方ではなく、中身・内容としての知(広義の哲学する知)が育てられますから、本人もわたしも楽しく、よろこびがあります。深く仲良くなれます。親も理解→了解し、協力する姿勢が必要ですが、頭も身体も固さがとれて、柔らかくしなやかになるので、知は対象物ではなく、生きて自分自身のものになります。身体化されるのです。

この最初の教室(我孫子市寿、緑との境・上の写真)は、二部屋あわせて9畳の畳部屋で、昔ながら汲み取り便所、わたしも初めての経験で水はいりません(笑)1976年～1982年まで6年間でした。その後、友人の飯泉善充さんから誘いがあり、今の場所(我孫子市寿 1-20-1)に引っ越したのです。

この最初の教室(我孫子市寿、緑との境・上の写真)は、二部屋あわせて9畳の畳部屋で、昔ながら汲み取り便所、わたしも初めての経験で水はいりません(笑)1976年～1982年まで6年間でした。その後、友人の飯泉善充さんから誘いがあり、今の場所(我孫子市寿 1-20-1)に引っ越したのです。

我孫子で友人となった飯泉善充さんが観賞用と食用の川魚を売るために、簡素な建物を建てたのです。その一室(1階の右側)を教室として使ったらどうか、家賃は今と同額で、という話しだったので快諾したのです。1982年からです。

14年後に善充さんが成田に養魚場を借り、引っ越すことになった為、わたしの思想と教育実践を応援してくれていた善充さんの父の飯泉ひろしさん(ひろしは決の字のつくりの部分がかたなのですが、漢字変換ができませんのでひらがなで書きます)が、建物付きで土地を格安で譲ってくれることになりました。ただし、私塾だけの年収では銀行では借りられないと思いましたが、ひろしさんの友人で本町で材木商を営む横山さんが千葉銀行に話すと、無条件ですぐ貸してくれました(ビックリ)。教室を2階にして、1階を阿部事務所と合同オフィスに貸した賃料で毎月の返済ができましたので、ラッキーでした。



ただし、2階は改装しないと使えませんでしたので、業者に頼んで改装しましたが、できることはわたしと教え子でやりました。幼いころから来ていた有紀子ちゃんはずっと通って手伝ってくれましたし、高校1年の森君と息子の弘人も大学生たちも棚や机の組み立てをしてくれました。

振り返ると、95年が全力投球の福島市長選。そして、96年の春休みに改装をした後、99年から文学館の建築・創造がはじまり、それが2001年に完成すると、2002年から教育館を建造するという超超高密度な時間となりました。よくぞまあ死ななかったもの～～(笑)

いや、2002年後半には自宅を新校舎ができるまでの教室に改造する工事も行った！

土地の広さと形(変形四角形)に合わせて、綿密な位置取り、内部空間の設計、細かな寸法取りを終え、予算をなんとか工面して、2003年に片付け、引っ越しをし、解体作業、その後、基礎の基礎として固い岩盤層まで6メートルの鋼管を262本打ち込み、その上に大きな基礎



をつくり、建前へと進む。片付けは大変な作業で、角松旅館の長女・さよちゃんが連日お手伝いに来てくれ、引っ越しは、鎌ヶ谷とわの会の面々と阿部憲一君。みなさんどうもありがとう～～。



この後の具体的な建造にまつわる話はたくさんありますが、書いたらキリがないので、すべてカットしますが、この土地には因縁があります。

わたしが長年親しくお付き合いしてきた故 飯泉ひろしさんが格安で譲ってくれたのですが、飯泉さんは、白樺派の柳宗悦、兼子夫妻や志賀直哉と親交があった我孫子でも唯一と思われ一家です。ただし、そんなことは、わたしのみならず、誰も知りませんでした。

ところが、わたしが『白樺文学館』を創るとき、柳宗悦全集の書簡集を読んでいたら「飯泉さん」という言葉が何度も出てくるので、ひろしさんに話して書簡集をお見せすると、「ああ、これはわたしの父親のことで・・・」と思い出話をされたので、はじめて白樺派と深いつながりがあることが分かったのです。

この新発見の事実は、「我孫子の文化を守る会」から依頼された20周年特別講演会で発表しました。白樺教育館ホームページ²⁰⁾ [「飯泉賢二さんのこと」](#)をご覧ください

念願の新校舎ができ、²¹⁾ [お披露目パーティー](#)を2004年2月1日に行いました。61名の方がかけてくれました。お祝いの音楽は、ベートーヴェン合唱幻想曲でラストの盛り上がりは強烈！

【恋知】(ソクラテスの造語＝プロソピアの直訳語)の実存思想による教育と活動は、ここから更に発展して今日に至っていますが、今年は、白樺教育館活動を支える社団法人「白樺同人社」もできました。ワクワクしますね～～。教え子の西山裕天君が煩雑な手続きをしてくれました。



2004年2月1日 白樺教育館新館 落成記念パーティー

白樺教育館のさまざまな情報は、²²⁾ [ホームページ「白樺教育館」](#)に詳しく載せてありますのでご覧ください。副館長の古林治さんの製作です。²³⁾ [文学館のオリジナルホームページ](#)も ²⁴⁾ [文学館創成期](#)もみな古林さん製作。

『ソクラテスのフィロソフィー』の核心を簡明に記しましょう。

ソクラテスのいう恋知＝哲学の核心。

恋心がなければ、人間の現実は成立しません。

わたしたち日本人はとりわけ誤解していますが、
現実の損得利害という次元も、憧れ想うという恋する次元に支えられなければ、ほんらい成立しないのです。

ものやお金、さまざまな知識、それらがどれだけあっても価値は生じません。

そこに意味と価値を生じさせるのは、惹きつける＝魅了するという作用です。それは「恋心」と呼ばれますが、何かに惹きつけられるという恋心が生じることで、はじめてわたしたちを取り巻く世界は意味をもち、色づきます。灰色の世界から彩色の世界に変貌するのです。

だから、ロマンや理念の世界が豊かに広がることがないと、人間にとっての現実は成立しないのです。色を失った魅力のない事実人(犬ではなく人であるというだけ)と事実学(意味論のない受験知)だけの世界に陥ります。

多くの日本人は、この人間の生の原理を知りません。逆転しているので、いつまでも不幸です。

小学校から大学まで、このフィロソフィーの根本意味を教えていません。だから、恋心にとらわれることなくしては、ほんらいの学も知も成立しないことを知らないのです。ただの「事実学」の羅列、その取得＝暗記に耐える苦行が知や学だとしています。意味論＝本質論こそがほんらいの知であることを教えない教育は、人間抑圧のアイテムにすぎません。昔の白黒映画「ローマの休日」は、恋が人を人間に変えることを教えています。

古代ギリシャ神話で、規則主義・管理主義で厳禁の精神＝「必然の神アナンケ」を打ち負かしたのが、「恋心の神エロース」です。人を支配するという発想をもたないエロース神が世界の中心になってはじめて、外的秩序の強制(古代王政)から、一人ひとりの自由と悦びの内的秩序による国(ポリスの民主政)が生まれました。



エロース(惹きつけるもの・恋心)は、『個人』の中にしか生じませんし、また、個人はエロース豊かに生きることで、わたしの存在を肯定でき、意味充実の生の世界を拓くことができるのです。

ギリシャ神話のエロースが、なぜフィロソフィー（恋知・哲学）の神なのか？

プラトンによるソクラテスの対話編で、世界文学の古典として名高い『饗宴』は、エロース＝恋愛の話ですが、そこでは、エロースについていろいろ語られます。

ギリシャ神話で、エロースは最も古い神です。世界の始源、混沌・カオスからはじめに生まれたのがエロース(恋愛)とガイア(大地)とタルタロス(地底)です。

エロースはまた別の話では、美の神アフロディティ(別名ヴィーナス)の子どもとも言われます。

男神エロースと人間の女性ブシュケーの愛の物語は、甘美でこども向けのギリシャ神話にも紹介されていて楽しく魅力的です(これはローマ時代に付け加えられたお話ですが、ブシュケーの話はまるで親鸞の「他力思想」の神話版のよう)。

大地(物質)があってもそれだけでは「無」と等しく、何も起きず始まりません。恋愛＝惹きつける作用が生じることで、あらゆる出来事が生まれ、あらゆる事象に意味と価値が生じます。

ゆえに、始源なのです。

ソクラテスによる造語であるプロソピア(フィロソフィー)とは、「恋愛」と「知」を足した言葉であり、プラトンがつくった史上最も名高い学園『アカデメイア』(私塾のような自由な学園)の主祭神が恋愛を象徴するエロースなのは、その惹きつける＝恋い焦がれるという作用こそが、あらゆる人間活動の始まりだからです。

動かす作用こそ始発であり、それは、何かに惹きつけられる＝恋するという「心」の作用です。その作用を起こさせる神が、エロースなので、エロースは特別な神とされました。

ギリシャ神話の神々のトップはゼウスですが、ゼウスもエロースのいうことはすべて聞かねばならず、エロースには誰もかないません。エロースはその矢で熱烈な恋心を起こさせるので、支配者ではないのですが、誰も逆らうことができません。

「恋知者(哲学者)とは、この世の支配者をはるか下に見下ろす者である」と『国家』の中でソクラテス・プラトンがいうのは、そういう含意です。

善美に憧れ、真実を求める人間の人的な心＝精神は、エロースがもたらすもの、惹きつけられ、憧れ思う作用＝恋愛こそが一切の始源である、この卓見が古代ギリシャのソクラテスを特別な存在にしています。

わたしの想いと考えと行為

わたしは、何かするとき、それが世間的に価値があるかないか、とは考えないのです。意識して考えないというのではなく、自分がやりたいと思うと、そこに向かってしまいます。

だから、なんでも私にとっては自然です。【私塾を開こう！】と思ったのは、学校教育(東大病)はよくない、面白味がなく、競争主義で、変な人間を育てている、だから、わたしが人間味ある教育に挑戦するぞ！それは凄く価値ある仕事でドキドキする、そんな感じです。



2022 age 70

哲学というのも対象として哲学という学問がある、とは始めから思っ
ていませんでした。哲学(正しくは恋知)すること、何がホントウかを知ろうとする探求心があり、燃えるのです。だからわたしには、大学で哲学を修めるというのは無意味なことでした。哲学とはわたしの生き方、わたしの存在し方のことで、対象物ではないのです。わたしが哲学なのです。

どうもそのようなわたしの思いや考え方が、世間一般とはズレているようなのですが、それはわたしの幼少期からの体験が影響しているのでしょう。わたしには、世間価値に従う心がとても少ないのです。すべての価値はわたしが生み出します。実存とは学問や思想のことではなく、生身のわたしの生のことです。実存の冒険は、わたしの心にある善美への憧れであり、わたしにとっての真実の追求として行なわれます。自他のエロースを豊かにし広げていくためにね。

一般的によい、一般的に優れている、一般的に価値がある、というのでは、生きるに値しないのです。わたし自身が心の底から納得する＝腑に落ちるという深い私性＝普遍性を目がけて生きてきましたので、どうも一般人とは折り合いが悪いのです。

●恋知・実存・公共マークの意味 自由・理性・愛情について。



自由は、人間性の土台。「自由から逃れることはできない」「自由の刑に処せられている」（サルトル）という逆説的言い方もあるほどです。自由は、人間存在の原事実です。人間的な生を可能とするには、自由であることを明晰に自覚することが必要です。

理性は、部分的な知識＝各個別学問の足し算とは次元を異にする頭の使い方、総合的な判断能力のことです。分析的な能力と記憶により得られる知ではなく、それらを手段として用いながら、全体的・立体的な総合判断をする力です。

そのためには、自身の体験に基づく身体性を伴う認識をベースに、全体を俯瞰する直観知を磨くことが必要です。「論理ゲーム」を超えるセンスとイマジネールの豊かさが求められますので、日々の生活仕方を工夫しないとはいけません。**受験知がどれほど「優秀」でも理性は得られません。**

愛情は、生命体としての根源で、愛情に乏しければ、すべてに意味がなくなります。愛情とは言葉ではなく、心身全体から発するよろこびの感情です。愛情は海であり、理性は船です。海のない船には、意味も価値もありません。

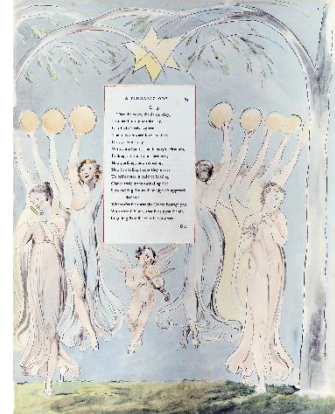
自由を中心にもち、**理性**がそれを取りまき、**愛情**がすべてを包む。それがわたしの創った恋知・実存・共和マークの意味なのです。世界に広めたいと思います。

以下は、表紙のブレイクの版画と、エロース（キューピット）像の説明です。

表紙は、ウィリアム・ブレイク(詩人で版画家で画家・英国人 1757 年～1827 年)の版画で、トマス・グレイの詩『詩歌の進歩』(雄大な叙事詩)に付けられた挿絵の 1 枚。

全 12 枚で、6 枚を武田自宅、6 枚を白樺教育館に展示しています。

白樺派の柳宗悦は、本格的なはじめての著作が『ウィリアム・ブレイク』(我孫子に移ってすぐに出版した 800 ページの世界水準を抜く大作)でしたが、晩年まで寝言で英語のブレイクの詩を口ずさむほど(兼子夫人の証言)敬愛していました。



なおこの版画の中央には小さなエロース(英語ではキューピット)が描かれていますが、弓矢の代わりにヴァイオリンをもっているのは、ブレイクの独創で素晴らしい！ 音楽の神ミューズと恋愛の神エロースとは重なります。画は視覚ですがそれを超えた聴覚、特別な芸術としての音楽と詩を明示するアイデアは、ブレイクならではの卓越。



「エロース」はギリシャ語、英語で言えばキューピットです。史上もっとも名高いプラトンの学園「アカデメイア」の主祭神がエロースです。知や美や詩・音楽への恋心を表しています。

この写真の像はルーブル美術館にあるもので、紀元前ヘレニズム期の製作。素焼の優美なお人形、高さ 33cm。

世俗価値＝利害損得を超えた、善美への憧憬や真実の探求を目がける人間の心のシンボル(象徴)です。

2022 年 8 月 24 日

武田 康弘 70 歳

< 参 照 > (白樺教育館ホームページ)

- 1) 43年目の式根島キャンプ&ダイビング〜〜素敵な写真をアップ。
今年是中国シユタイナー学校のこどもたち。(このサイトのみブログ「思索の日記」)

<https://blog.goo.ne.jp/shirakabatakesen/e/f5a856d0fd6bfdafc816d8f39747529a>



- 2) ほんとうの教育と哲学を目掛けて
- 『全身の細胞で考える』 - 惰性態から脱するソクラテス的対話の36年

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori139.htm



- 3) 「竹内芳郎さんとの出会いと交際」

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori227E.htm#Discuss5



- 4) 「竹田青嗣さんとの出会いと対談」

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori227D.htm#Discuss4



- 5) 恋知エピソード 1 Love of thinking

1991年 討論塾 討論会

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori227.htm



- 6) 公共哲学論争

「公共」をめぐる哲学の活躍 -- これですべてがわかる！！

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori127.htm



- 7) 参議院調査室主宰での討論会

参議院主催パネル・ディスカッション「公共哲学と公務員倫理」

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori87.htm



- 8) 『恋知第3章 民主制と公共思想』

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori182.htm



- 9) 「公共哲学と公務員倫理」～パネルディスカッションを振り返って～

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori89.htm



- 10) 金泰昌(キム・テチャン)-武田康弘(たけだやすひろ)の
恋知対話(往復書簡) Part 1. 完結

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori81.htm



金泰昌(キム・テチャン)-武田康弘(たけだやすひろ)の
恋知対話(往復書簡) Part 2.

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori84.htm



- 11) 金泰昌(キム・テチャン)-武田康弘の往復書簡 出版へ
『ともに公共哲学する』 東京大学出版会刊



http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori123.htm

- 12) 客員調査員(哲学講師)となり、「主観性の知」を育成する講義を行う。
日経新聞による紹介

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori127.htm#ind4



- 13) 「新しい公共」について考えるパネル・ディスカッション
参議院(行政監視委員会調査室、内閣委員会調査室)主催

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori122.htm



- 14) 我孫子・丸刈り狂騒曲を振り返る

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori5.htm



- 15) 『緑と市民自治』(我孫子市全戸配布・福嶋裕彦発刊)誕生秘話

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori229.htm



- 16) 【白樺文学館創成記】

<http://www.shirakaba.gr.jp/genesis/index.html>



- 17) ● 誕生秘話 ●4. 白樺派の5人・肖像画(周剣石・画) 誕生の経緯

<http://www.shirakaba.gr.jp/genesis/hiwa/hiwa4.html>



- 18) 佐野さんのこと、周さんのこと

http://www.shirakaba.gr.jp/tenmatu_ki/home/beginning/shiraka/cshira9.htm



- 19) 文学館の顔、小林多喜二への書簡

<http://www.shirakaba.gr.jp/genesis/tenmatsu/tenmatsu/cshira13.htm>



- 20) 飯泉賢二(いいずみけんじ)さんのこと

- 柳夫妻との親交 -

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori35.htm



- 21) 写真で見るー2. 1落成祝いの集い

http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori47.htm



- 22) ホームページ「白樺教育館」

<http://www.shirakaba.gr.jp/index.htm>



- 23) 文学館のオリジナルホームページ

http://www.shirakaba.gr.jp/tenmatu_ki/index.htm



- 24) 文学館創成期

<http://www.shirakaba.gr.jp/genesis/index.html>



25) 『緑と市民自治』(我孫子市全戸配布・福嶋裕彦発刊)誕生秘話
http://www.shirakaba.gr.jp/home/tayori/k_tayori229.htm





—古代の実存思想—

ソクラテス 前469 ~ 399
 ブッダ 前463 ~ 383 (中村元)
 老子 前320 ~ 250 (保立)

ブッダ (釈迦) の中心思想は「天上天下唯我独尊」。SMAPの「世界に一つだけの花」は、その分かりやすい現代バージョン。すべては「縁」により起こると言う真実を明らかにし、拠り所は自分自身と法則であると説いた。慈悲に満ちている。ほぼ同時代に活躍したソクラテスは、エロース (恋愛) を動力源として個人の考える力と善美に憧れ真実を求める生き方を至高とした。問答法により、思慮の点では、知識人は、ふつうの人に劣っていることを示した為に恨みを持った。女性原理につく中国の老子は、水のようなしなやかさを理想とし、悠然と道を歩み、内から湧れるパワーある徳を説き、孔子の道徳を批判した。女男の性愛による結びつきを重視し、そこから公共や国を考えたと。[学を絶てば憂いなし]

恋知

φιλοσοφία
 フロソピア
 Philosophy



アカテメイヤの
 神リエロース

Love of thinking

事象学ではなく意味論の世界へ。
 (受験知) (本質論)

ネオテニー (幼態成熟) - 人間の生物としての特性

neos (若さ) + teine (延長) ヒトは、大人にはならない。
 20世紀の人類学者・モンターギュー
 競争原理から納得原理へ。
 それが人類進化のほんらいの方向。



他力念仏の法然門徒は、後鳥羽上皇らにより弾圧され、親鸞は佐渡に高流しとなり、4人が死罪となる。
 親鸞は、中世日本の実存思想の中心。「善人でさえ往生できる (救われる) のだから、悪人はなおのこと」浄土真宗はわが国最大の宗派で、晩年のハイデガーは、西欧哲学から離れ、親鸞思想に傾倒、心酔した。



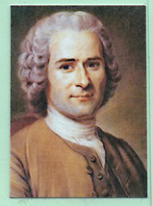
親鸞 1173 ~ 1262

「不滅の恋人」に象徴されるように、恋愛はベートーヴェンの創作の源泉。自由と平等の【共和制】(王や貴族はいない) による人類の解放と個々人のよるこびを歌う交響曲9番【合唱】は、全世界で最も敬愛されてきた傑作。今なお現代的・未来性をもつ作品も多い。



ベートーヴェン 1770 ~ 1827

第九よるこびの歌



生前は、恋愛小説家として著名。同時に発表された【エミール】(教育論の古典といわれる大著) と【社会契約論】(古代アテネの直接民主制に範をとり、人民主権による社会の原理を示した) は、近代民主主義を拓いた名著。

ルソー 1712 ~ 1778



Greatest Love of all



作詞リンダ 1948-1986 歌ホイットニー 1963-2012 アリの自伝映画 1942-2016
 ホイットニー・ヒューストンの一番愛した歌
 「自分自身を愛することを学ばば、それは、最も偉大な愛となる。」
 (リンダ、訳タケダ)

世界に一つだけの花

SMAPの皆が愛した最大のヒット曲。
 (作詩・作曲・横原敬之)



「感じ 想い 考える 私」が座標軸

よい・good 美しい・beautifulへの憧れ
 青空を見る習慣を! 創立1976年~

実存は、本質に先立つ



サルトル 1905 ~ 1980

人間は、自由から逃げることはできない。実存的倫理、実存的精神分析。20世紀フランスの実存主義者サルトルは、ノーベル文学賞を辞退。日本の受容は竹内芳郎が中心。

意味をつかみ、真実・truthを探求する。

人間の価値は、知識・履歴・財産の所有ではなく、存在の魅力にあります。そこにいるだけでよいのです。

外的 (世間的) 価値に合わせ従うのではなく、内的真実と意味充実の生を歩むのが、人間のほんらいの姿です。

沈思と自問自答、静かに自己を見つめ、内から内発的に思考する。その土台のない【対話】は無意味です。

序列と形の日本文化を超えて、内容と意味にあふれる世界へ!

武田康弘

原上天草親皇命 1979年~
 ソクラテス教室 1976年~
 2015年第40回式慰問キャンプダイビング (63歳)



私と共和制
 楽しい公共社会を生むために
 十人集思の三分割と参加

武田康弘
 白樺教育館

天皇は、国事行為から解放され、文化と国際親善に専念。人権の回復と共和制へのスムーズな移行が必要。
 江戸城ではなく、ほんらいの住まいである京都御所に戻れることが求められる。

武田 康弘 プロフィール (ウィキペディアより引用)

武田 康弘(たけだ やすひろ、1952年5月14日 -)とは、日本の哲学者(恋知者)、教育者。白樺教育館館長、白樺文学館のコンセプト立案者及び初代館長。

現代の大学などで教えられる一学問としての哲学を批判し、ソクラテスによって生み出されて定義された本来の意味として、哲学を捉えなおす恋知思想の提唱^[1]や、現在の公務員制度を維持する思想的土台への批判とその観点による参議院の現職公務員に対する講義^{[2][3][4]}、中学生等に対する丸刈り強制(丸刈り校則)に象徴される管理教育への批判や体罰問題等の是正を行った活動^[5]などで知られる。また、2009年に参議院事務総長より参議院行政監視委員会の客員調査員に任命され、国会に勤務する官僚へ日本国憲法の哲学的土台について講義を行う^[6]。

略 歴

1952年、東京都千代田区神田須田町生まれ。

学生時代より大学内哲学に疑問を抱いており、これがのちの思想形成に繋がる。

1976年に千葉県我孫子市に私塾を開設、同時に『我孫子教育研究会』を主宰し児童教育の在り方を模索するかたわら、1982年にジャン＝ポール・サルトル やメルロ・ポンティ等の邦訳者・紹介者として知られる哲学者、竹内芳郎に師事する。

1987年、自身の手で『我孫子哲学研究会』を、1989年には竹内と共に『討論塾』を立ち上げ、市民の政治参加のための新しい思想(公共思想)を考え、またそれを支える市民同士の対話文化を生むための活動などを行う^[2]。この時の活動と思想は、第8・9・10代千葉県我孫子市長である福嶋浩彦による我孫子市政運営の、思想的土台となった。また同時期に我孫子市の中学校で行われていた管理教育を是正する運動を行い、体罰問題などの是正を行う^[5]。

1999年、我孫子の地に『白樺文学館』を創設する構想を練り、武田哲学に賛同して



武田康弘(2011年1月撮影)

生誕 1952年5月14日

日本 東京都千代田区神田

時代 20世紀 - 21世紀

地域 現代思想

学派 在野

研究分野 哲学

主な概念 恋知

影響を受けた人物:

ソクラテス、プラトン、
ブッダ、老子、親鸞、
柳宗悦、ジャン＝ポール・
サルトル、アシュレー・
モンタギュー、竹内芳郎

影響を与えた人物:

福嶋浩彦、佐野力

いた佐野力(日本オラクル)の資金協力の元、白樺文学館の建物や収蔵品の選定と収集、また館内の展示等全コンセプトの設計を行い、白樺文学館初代館長に就任する。

2004年に自身の私塾を発展させた『白樺教育館』を創建し、小学生から大人までの全年齢を対象とした『意味論による教科の学習』と『対話方式による哲学授業(恋知)』を行っている[2]。

参議院での活動

2008年1月22日、公共哲学論争を巻き起こした武田と、公共哲学運動の中心人物である金泰昌(公共哲学共働研究所所長)、山脇直司(東京大学大学院教授)、また現職の公務員である荒井達夫(参議院総務委員会調査室)を合わせた4名でのパネルディスカッションが、参議院内にて行われた[3][7]。

この時武田が示した「国家公務員法第96条の理念を哲学的に説明する公務員倫理の原理」(武田思想)は、後に行政監視委員会調査室が注目する竹田青嗣の「公共的良心の概念」(竹田思想)と共に、『公務員制度・公務員倫理について「主権在民」の原理を徹底し公務を正常化させる為不可欠である』との意見調査書が行政監視委員会調査室により纏められている[8]。

主な思想

氏は哲学書の読解に終始する既存の哲学に対して問題提起を行っており、その実践として積極的な思想提言・発信をしている。以下に主な思想を提示する。

- ・ 氏の思想的土台として、**既存の大学内哲学を批判**し、人間のネオテニーとしての特性(アシュレー・モンタギュー)に着目して、『体験に基づき自分の頭で考える』という意味で哲学を再定義する為に、**恋知(れんち)思想**を提唱している。
詳細は「恋知」を参照
- ・ 近代西洋哲学は、キリスト教神学=スコラ哲学の改革として、デカルトに始まりハイデガーにより終焉した思想史であると指摘する。それを超える為には、近代西洋哲学と異なる発想に立つ必要性があり、同時にキリスト教等の一神教的思想世界とも決別した上で、新たに哲学的思想を発展させて行く他に無いと指摘する。古代の実存思想(アテナイのソクラテス、インドのブッダ、中国の老子)に学ぶ必要性を指摘し、それを実践する”恋知の営み”を提案している[9][10][11]。

- ・ 人権思想について、キリスト教圏で育まれた唯一神の存在を必要とする思想ではなく、幼子の存在を前にした時の自然な愛情を淵源とする、より**普遍的な思想として人権思想を再定義し直す事が必須である**と指摘する[12]。
- ・ 日本社会における集団同調的社会風土や、教育の本質を「受験を目的とする学習」とする現状等の**現代日本社会が抱える諸問題の深因は、根強く残る戦前思想にある**と指摘し、厳しく批判している[13]。明治政府が作成した、天皇を絶対的な中心に据え上下倫理に重きを置く近代天皇制(大日本帝国憲法下の天皇制)の道德観念には根本的な問題があると指摘し、この道德観念が亡霊のように現代社会に生き続ける限り、総合的判断力としての個人の理性を獲得できない、即ち道德を獲得できないとする。武田は、白樺派の文豪である志賀直哉の『こんな奇妙なものが無ければならないのかしら？天皇というのはおそらく人間ではあるまい、単に無形の名らしい。[14]』という見方を自身の思想と重なるものとして紹介し、**“天皇という記号”により生まれる“タブーを含む社会”は、無意識領域まで管理され思考しない人間を生んでしまう**と指摘する。この事は現代日本人の人生観や生き方にも大きく影響していると指摘し、これを超克する必要性を訴え、より善い市民社会の実現と豊かな人間性を開花させる為の実存思想として、“恋知”を思想的土台とする事を提唱している[13]。
- ・ 唯一神への信仰である一神教やその亜流である西欧哲学を前提とした人権思想・民主主義思想を改めた上で、“恋知”を元に天皇制から**共和制への移行が必要**であると指摘している[15]。

出典・脚注

1. ^ 金 泰昌 『ともに公共哲学するー日本での対話・共働・開新』 東京大学出版会、2010 年。ISBN 978-4130101172。
2. ^ a b c 参議院事務局企画調整室 『立法と調査 別冊』 参議院事務局企画調整室、2008 年 2 月。ISSN 0915-1338。
3. ^ a b 参議院事務局企画調整室 『立法と調査 別冊』 参議院事務局企画調整室、2008 年 4 月。ISSN 0915-1338。
4. ^ 参議院事務局企画調整室 『立法と調査 別冊』 参議院事務局企画調整室、2008 年 11 月。ISSN 0915-1338。
5. ^ a b 岩波書店 (1992-08), 『世界』, 岩波書店, ISSN 05824532
6. ^ “社会人-第 58 話「街の哲学 人を動かす」”. 日本経済新聞. (2009 年 11 月 22 日朝刊)
7. ^ [パネルディスカッション「公共哲学と公務員倫理」 ～民主制国家における公務員の本質](#)

～平成 20 年 2 月 20 日内閣委員会調査室・総務委員会調査室・行政監視委員会調査室

8. ^ [キャリアシステムと公共哲学 ～行政運営の思想的土台について考える～](#)平成 21 年 10 月 1 日 行政監視委員会調査室
 9. ^ 『人類思想の三分類 「儒教・儒学」、「ソクラテス・ブッダ・老子の実存思想」、「キリスト教・イスラム教などの一神教」と「恋知』』 [1]
 10. ^ Three Schools Of Thought That Have Impacted Humans Up Till The Present[2]
 11. ^ Three Schools Of Thought That Have Impacted Humans Up To The Present [3]
 12. ^ 『人権思想の淵源は宗教ではない』 [4]
 13. ^ a b 『明治政府がつくった 天皇という記号』 [5]
 14. ^ 志賀直哉 『志賀直哉全集 補巻 5 補巻五 手帳・ノート(一)』 岩波書店、2002 年 2 月 5 日。ISBN 978- 4000922371。
 15. ^ 『私と共和制 楽しい公共社会を生むために』 [6]
-

関連項目

- ・ [恋知](#)
- ・ [竹内芳郎](#)
- ・ [アシュレー・モンタギュー](#)
- ・ [参議院](#)

カテゴリ:

日本の哲学者 | 日本の教育者 | 東京都区部出身の人物 | 1952 年生 | 存命人物

最終更新 2021 年 8 月 29 日

恋知への道のり

20年間の身体の闘いと、
私が輝く私塾と哲学の切り開き。

2022年 8月24日初版 第1刷

2022年 11月 6日初版 第8刷

定価 400 円

発行：白樺教育館

千葉県 我孫子市 寿 1-20-1

☎ 04-7184-9392

Mail: shirakaba2002@k.email.ne.jp

ホームページ：<http://www.shirakaba.gr.jp>

